

授業科目 消費と経済

【担当教員名】  原 敏明	対象学年	1	対象学科	理学・作業・言語・義肢・臨床・健康・スポ・社会・看護・情報
	開講時期	前期	必修選択	選択
	単位数	2	時間数	30

【カリキュラムポリシーとの関連性】

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現

【概要・一般目標：G10】

1. 消費側から経済の諸理論と諸事情を理解する。理解を助けるため、自動車を事例に講義する。
2. コミュニケーション能力を高め、チームプレーの出来る高度専門職を目指す訓練をする。そのため、講義参加者でチームを結成し、チーム討議を通じて、コミュニケーションスキルを高め、自分の長所を認識する。
3. チーム討議と、翌週のスクリーン発表を通じ、講義参加学生一人ひとりが、その関心や分野の相違で、違う見方や意見を持つことを体得し、多くの人々の意見を聴く重要性を学ぶ。

【学習目標・行動目標：SBO】

1. 経済の基礎を理解する。
2. 国内総生産の基礎を理解する。
3. 経済分析理論の基礎を理解する。
4. 国際経済理論の基礎を理解する。
5. 金融政策と財政政策の基礎を理解する。
6. 教育サービス、医療サービス、社会保障を考える。
7. チーム討議に参加する。
8. 短い文章で自分の意見を発表する。

回数	授業計画・学習の主題	SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	財とサービス 地球に63億の人とともに、8億の自動車がある。その3割は米国に、1割は日本。新車の取引は国内総生産に加算されるが中古車はどうか。家庭外有償労働は国内総生産に含まれるが、家庭内無償労働はどうか。	1.2.7.8	講義、チーム討議、短文作成
2	3つの経済主体 日産のサニー、トヨタのカローラの大量輸出は何をもたらしたか。	2.7.8	講義、チーム討議、短文作成
3	完全競争市場 産業革命の英国も自動車発明国のドイツも、いずれも最初の自動車大国になれなかった。なぜフランスが最初の自動車大国になったのか。	1.4.6.7	講義、チーム討議、短文作成
4	需要曲線と供給曲線 米国のフォードのT型を事例として考える。	1.7.8	講義、チーム討議、短文作成
5	経済成長の3要因 日本のスバル360とスウェーデンのヴォルボを事例に考える。	1.4.7.8	講義、チーム討議、短文作成
6	先進国・その秘密 米国のGMの戦略、ホンダのCIVICを事例に考える。	1.4.7.8	講義、チーム討議、短文作成
7	為替相場と円高 GMの円高要請と鈴木スズキ自動車会長の反論を考える。	4.7.8	講義、チーム討議、短文作成
8	通貨 マネーサプライ、ハイパワードマネー、公開市場操作などを考える。	5.7.8	講義、チーム討議、短文作成
9	財政政策と金融政策 IS・LM分析、流動性の罫、フィッシャーの方程式などを考える。	5.7.8	講義、チーム討議、短文作成
10	インフレ・デフレ 日産シーマの事例で考える。	5.7.8	講義、チーム討議、短文作成
11	主要産業動向と生活 スウェーデンの高度福祉社会建設とその維持が困難になったこととスウェーデンのヴォルボとの関係を事例に考える。	6.7.8	講義、チーム討議、短文作成
12	社会保障と経済・教育と医療 最初の自動車大国フランスで誕生した世界最初の百貨店を事例に考える。教育サービス産業や医療サービス産業の現状を考える。	6.7.8	講義、チーム討議、短文作成
13	米国発金融危機 現在、世界最大の問題はなぜ起きたのかを考える	3.4.5	講義、チーム討議、短文作成
14	これからの消費と経済 就職を含め、これからの消費と経済を考える	3.4.5	講義、チーム討議、短文作成
15	最終レポート提出		

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)	使用しない			
参考書	必要に応じて示唆する			
その他の資料	オピニオン誌や新聞記事を利用・配布する			

【評価方法】

1 毎回提出の短文の内容 2 チーム討議の評価 3 最終レポートの3点で総合的に評価する。

【履修上の留意点】

受講生を327人に制限する。これを超えて受講希望がある場合は初回の席への先着順とする。初回の席は自由。2回目以降の席は指定する。最大6人で1チームを編成、チーム討議を行う。ほとんどの講義参加者が最少でも数人の新しい友人が出来ると思う。毎回名札着用のこと。